

事業完了報告書（実行団体）

事業名:	多文化共生のまちづくりに向けての第一歩
資金分配団体名:	公益財団法人東近江三方よし基金
実行団体名:	特定非営利活動法人 まちづくりネット東近江
実施時期:	2021年5月～2022年3月
事業対象地域:	滋賀県
事業対象者:	東近江市に在勤、在住する外国籍の方

Version 3.2
日付: 2022年3月12日

I. 事業概要

事業実施概要	<p>医療や福祉を含む現場では言葉が通じないことからコミュニケーション不足に陥り重要なことが伝わらないことが多々ある。そうした外国籍の方の生活面でのコミュニケーションの課題を克服するため、翻訳ツールを充実を図り、主要な窓口等に貸し出しできる仕組みを整えた。また、日常生活の中で、多文化共生を実現するため、文化の違いや生活習慣の違い等を認め合える関係を構築する企画として多文化共生フェスタやサロンを開催した。当初は実際に集まるイベントとして計画していたがオンラインへ変更したことで、結果として多くの映像記録の配信や記録できた。同時にコロナ禍で経営が厳しい飲食店を支えるため、市内の7店舗を巡るスタンプラリーを行った。</p> <p>普段から顔見知りになれる場や、困りごとを気軽に話せる場をつくるための「多文化共生サロン」の開催を6回行った。</p> <p>これまで関係する団体がそれぞれ別々に課題解決を図ってきたが、本事業により関係団体の連携ができたことで、役割分担できること、相談できる関係ができたことは大きな成果であり、こうした日常的なつながりが災害時や緊急時の助け合いにもつながっていく一端となると考えている。</p>
--------	---

II. 課題・事業設計の振り返り

課題設定、事業設計に関する振り返り	<p>多文化共生フェスタやサロンを開催していく中で、これまで以上に外国人の方と話す機会が増えた。こうした事業を通じて改めて実感したのは、文化的相違にとどまらず考え方や価値観も多様であることである。今後、外国籍の方が増加していく中で、多文化共生のまちづくりは必須である。多文化共生のまちづくりには、言葉が通じなくてもコミュニケーションを継続して図ることを通じて、互いの違いを認められる環境づくりが、重要性を増してくることになる。</p> <p>本事業を通じてそれぞれの違いを共有するきっかけとなったが、今後はその違いを認め、さらに色々な考えを活かせるまちを創っていくことが東近江市の多文化共生のまちづくりの課題の一つであり、本団体も引き続き関わっていききたい。</p> <p>多文化共生フェスタやサロンを開催して気づいた課題や様々な団体との話し合いの中で感じた地域課題を、今後の多文化共生のまちづくりに生かしていくことが改めて必要である。これまでの活動で培ったことや人とのつながりを生かして、東近江市に住む外国籍の人達が住みやすいまちにしていきたい。</p>
-------------------	--

III. 今回の事業実施で達成される状態（アウトプット）※複数設定の場合はコピーし複数記載ください。

①受益者	②課題	③今回の事業実施で達成される状態（アウトプット）	④指標	⑤目標値・目標状態	⑥結果	⑦考察
その他	連携の不足	地域の中で、多文化共生に興味や関心を持つ人が増える。	新規日本語教室ボランティアの申込数 出店店舗の数 来場参加者数	ボランティアの数 (5人) 参加外国数(10カ国) 参加者数(1,000人)	ボランティアの数 (5人) 参加外国数(8カ国) 参加者数(745人)	多文化共生フェスタやサロンを開催する中で、地域の現状を話すことが多く、在住外国人の人数などを伝えている。
その他	連携の不足	多文化共生に関する意識の変化の把握	外国籍の方との交流に関するアンケートの実施	サロンやフェスタでのアンケートの実施	26件	意識の変化と、今後への期待の声が多かった。次の事業への発展につなげる。
外国人・外国にルーツを持つ人	その他	地域の話し合いの中で、外国籍の方についての話題がでる。	多文化共生サロンの開催	開催数(6回)	開催数(6回)	多文化共生フェスタの中で、外国人の方に、日本に住んでいて感じることなどを話してもらい機会をつくる。
外国人・外国にルーツを持つ人	相談先の不足	翻訳ツールを使って、外国籍の方とのコミュニケーションを図る人が増える。	翻訳ツールの貸出件数	貸出件数(5件)	貸出件数(5件)	医療従事者や介護士などが集まる場で、翻訳ツールの使い方や外国籍の方とのコミュニケーションを図り方を伝える場を設けた。
その他	連携の不足	多文化共生に取り組む組織の方針が決定されている。	組織化の方針策定	方針策定	2022年度の休眠預金で3か年計画に発展した	関係者に集まってもらう機会をつくり、今の現状を話す機会をつくる。その中で、今後、どのような事業を行っていくとよいかなどを検討する。

IV. アウトカム（事業実施以降に目標とする状況）*

事業実施以降に目標とする状況	<p>地域の中で、多文化共生に興味や関心を持つ人が増える。</p> <p>地域の話し合いの中で、外国籍の方についての話題がでる。</p> <p>翻訳ツールを使って、外国籍の方とのコミュニケーションを図る人が増える。</p> <p>多文化共生に取り組む組織の方針が見えている。</p>
考察等	<p>今後、地域で外国人支援のための組織化を考えていく中で、フェスタやサロンで聞いた声や、外国人の方に聞いた話をもとに、どのような事業が必要なのかを整理をして、組織化を考えていきたい。また、継続していくためにも、資金面の課題がかかるので、資金をどのように獲得していくことができるのかも含めて、考えていき、他の団体や事業者とも連携をしながら、多文化共生のまちづくりに向けて動き出している。</p>

V. 活動

活動	進捗	概要
多文化共生フェスタのボランティア募集	計画通り	多文化共生フェスタは、ボランティアの方に参加していただき、一緒にフェスタを盛り上げてもらっている。開催後の会議では全員が来年度以降もこのような機会は必要だという熱が高く、継続して開催できるように収益化も含めて計画していく。
多文化共生フェスタの実行委員会で内容を検討	計画通り	多文化共生フェスタの内容は、実行委員会形式にして、どのように進めていくか、コンテンツの内容などを検討する。また、東近江で多文化共生のまちづくりに必要なことを考えてきた。
医療従事者に翻訳ツールを知ってもらう機会を創る	計画通り	医療従事者に翻訳ツールを知ってもらう機会をつくった。オンラインでの翻訳サービスのサブスク料金が医療対応プランは非常に高く、継続して提供できる仕組みを作るのは難しいという課題は残った。
多文化共生フェスタの開催	計画通り	計画時は、リアルでの開催を予定していたが、コロナ感染者が増加したため、オンラインでの開催に変更した。
オンライン等で、外国籍の方や日本人も含めて話をする場をつくる	計画通り	サロンを開催し、料理教室を行ったり、文化を知る機会をつくる。
多文化共生に取り組む組織の設立方針の検討	ほぼ計画通り	地域の現状を知り、外国人の支援を行っている方に集まってもらい、今後の事業内容の検討を行う。

VI. 想定外のアウトカム、活動、波及効果など

想定外のアウトカム、活動、波及効果など	1日限りのイベントではなく、動画での配信になったことで、メディアへの露出も増え長期的に閲覧してもらえる機会が増え結果的に情報を届けるターゲットが増えた。収録のため参加団体の活動拠点に足を運べたこともよかった。本物の茶室での体験やブラジル人学校の現状などもイベントボランティアが肌で体感できた。
---------------------	--

VII. 事業終了時の課題を取り巻く環境や対象者の変化と次の活動

課題を取り巻く変化	市内に外国籍の方が4000人も住んでいるということサロンやイベントに参加して初めて知ったという方がアンケート結果からもわかった。チラシに載せた外国籍の人が経営するお店もたくさんあることが知ってもらえた。日本に住んでいても外国の文化に触れたいと考えている人が多く、また触れられる環境が東近江にあることを初めて知れたという声も多かった。直接、外国籍の人と知り合いになりたいと思っている人も多いことが分かった。事業に協力してもらった外国人の方も、日本人だけでなく他の国の人と関わることが良かったという声があった。日本人にはあたり前なことも外国人にとってはあたり前なことではないのできちんとやさしい日本語で伝えることが大切という認識を多くの日本人に持ってもらう。
-----------	---

VIII. 他団体との連携

連携先	実施内容・結果
東近江国際交流協会	多文化サロン、フェスタではたくさんの国の方とのつなぎ役で協働できた。
東近江市ラウンドテーブル運営委員会	まちのわ会議、市内に住む外国籍の方4か国（ベトナム、ペルー、韓国、ブラジル）に集まってもらい会議運営を担った。
東近江市立図書館	館内での広報や、スタンプラリーの消しゴムハンコ作成者とのつなぎ役で協働できた。
オンライン配信団体	フェスのオンライン化において撮影や編集の面で協働できた。

IX. インプット ※事業完了月の月次収支管理簿の金額を入力ください。（精算金額と一致させる必要はありません）

		計画額	実績額	執行率
事業費	直接事業費	3,000,000	3,000,000	100.0%
	管理的経費	0	0	#DIV/0!
合計		3,000,000	3,000,000	100.0%
補足説明				

X. 広報実績

広報内容	内容
1.メディア掲載（TV・ラジオ・新聞・雑誌・WEB等）	【新聞】毎日新聞2022.1.24/報知新聞/中日新聞 【TV】NHKおうみ630 2022.2.10 【Youtube】丸チェロさん広報 https://www.youtube.com/watch?v=CI_DcblabuQ https://www.youtube.com/watch?v=PtWIANgqm5w&t=360s
2.広報制作物等 当該事業費を使って制作したもの	多文化共生サロンのチラシ、多文化共生フェスタのチラシ オンラインフェスYoutube https://www.youtube.com/watch?v=nezkxaRC3CI
3.広報制作物、購入物等でシンボルマークの活用方法（事例）	多文化共生サロンのチラシ、多文化共生フェスタのチラシ
4.報告書等	

XI. ガバナンス・コンプライアンス実績

①規程類※の整備実績 ※規程類：定款・規程及び準ずる文書類(指針・ガイドライン等を含む)	状況	内容
1.事業期間に整備が求められている規程類の整備は完了しましたか。	完了	
2.上記設問1で「整備中」の場合は、事業開始時と比較して、整備状況がどのように改善されたかを記載してください。		
3.整備が完了した規程類を自団体のwebサイト上で広く一般公開していますか。	全て公開した	
4.変更があった規程類に関して資金分配団体に報告しましたか。	変更があり報告済	
②ガバナンス・コンプライアンス体制	状況	内容
1.社員総会、評議員会、理事会は、規程類の定める通りに開催されていますか。	はい	
2.利益相反防止のための自己申告を定期的に行っていますか。	はい	
3.関連する規程類や資金提供契約の定めどおり情報公開を行っていますか。	はい	
4.コンプライアンス委員会またはコンプライアンス責任者を設置しましたか。	はい	
5.ガバナンス・コンプライアンスの整備や強化施策を検討・実施しましたか。	いいえ	
6.報告年度の会計監査はどのように実施しましたか。 (実施予定の場合含む) (複数選択可)	<input type="checkbox"/> 外部監査 <input checked="" type="checkbox"/> 内部監査 <input type="checkbox"/> 実施予定はない	2022年度5月予定
7.本事業に対して、国や地方公共団体からの補助金・助成金を申請、または受領していますか。	いいえ	
8.内部通報制度は整備されていますか。	はい	

XII. その他

自由記述